

# ジェンダーに関わる表現「女子力」についての考察 —「女子力」を巡る記述における言語標識を中心に—

馬 雯 雯

## 要 旨

本研究は「女子力」を巡る記述における言語標識に焦点を当て、「女子力」ということばを考察するものである。分析に際し、まず、「女性」「女子」「女の子」に接尾辞の「らしい」「っぽい」が結び付いた言語標識を軸に、「女子力」にみられるジェンダーの要素の分析を試みた。そして、「できる」「優れている」「得意」「上手」といった動詞および形容詞を軸に、「女子力」にみられる能力の要素を探ってみた。その上で、「女子力」の使用の様相について男女別に分析を試みた。「女子力」は「女性らしさ」を構築する動的なプロセスを可視化し、「女性らしさ」のありかを示していることばである一方、「能力」としてその形式の「女子」に表われるジェンダーの境界線を越え、「男性」のジェンダー領域にも入っていることばであること、「女子力」の使用において、女性はそれを「ほめ」の効果のあることばとして同性に使うが、男性はそれを「冗談としてのほめ」の効果のあることばとして同性に使うことを明らかにした。

キーワード：ジェンダー、女性らしさ、能力、ほめ、冗談

## 1. はじめに

近年、「女子」にまつわる新しい造語が現れている。「女子力」はその一つで、2009年のユーキャン新語・流行語大賞にもノミネートされた。現在、「女子力」という語は定着していて、「女子力高いね」ということばは日常会話に普通に使われている。また、「女子力」は「アップ」「上げる」「診断テスト」などのことばとコロケーションを有して、「女子力アップ」「女子力を上げる方法」「女子力診断テスト」などの形でインターネットや雑誌、テレビといったマスメディアに飛び交っている。

このような背景の下に、本研究は、言語のミクロのレベルから「女子力」ということばに混在するジェンダーの要素と能力の要素はどのような言語標

識で表われるのか、そして、そこにみられる「女子力」の特徴はどのようなものかを明らかにした上で、「女子力」の使用の様相およびその男女別の特徴を明らかにする。

## 2. 先行研究

「女子力」に関する先行研究としては、近藤（2014）、大上ほか（2016）、菊地（2016、2019）が挙げられる。近藤（2014）は256件の雑誌記事を分析対象に、雑誌記事における「女子力」が指向する目的を「仕事指向」「異性（男性）指向」「同性（女性）指向」「自分指向」という四つのカテゴリーにわけて、質的分析を行った。その結果、「女子力」が女性の社会での活躍に結びつくという側面からは「女子力は、フェミニズムにとって一つの希望である」（p. 33）が、「男性指向」の「価値観」、「美しさ」への「執着」、「家事・育児負担」の「押し付け」といった点においては、「女子力」には依然として問題点があると指摘する。大上ほか（2016）は、「女子力」および「男らしさ・女らしさ」に関する先行研究を整理して検討した結果、「女子力」には「比較的短期間に努力し、ノウハウに基づいて行動すれば獲得・維持できるもの」（p. 184）と捉えられている側面があり、その点が「女らしさ」とは異なるとする。菊地（2016、2019）はアンケート調査を通し、「女子力」の使用実態を記述した上で、ポストフェミニズムの観点から「女子力」を考察し、「女子力」は「ジェンダー規範と能力主義の結合」で、「ポストフェミニズムの日本における存在を表現している」（菊地2019：124）言葉だと述べている。なお、菊地（2019：98）はポストフェミニズムを「フェミニズムを終わったものとして認識させ、フェミニズム的な価値観を周縁化し、それによってジェンダーとセクシュアリティの秩序を再編する社会状況」と定義する。

これらの先行研究は主に社会学の立場から「女子力」を考察したもので、非常に示唆に富んでいる。本研究では、特に、菊地（2016、2019）が指摘する「女子力」は「ジェンダー規範と能力主義の結合」であるという見方を踏まえ、「女子力」についての定義や解釈、および、「女子力」を使用した記述

における言語標識、言語表現に焦点を当て、ミクロのレベルから「女子力」を考察する。

### 3. 「〇〇力」における「女子力」の位置づけ

「女子力」は名詞「女子」と接尾辞の「力」によって形成された派生語である<sup>(1)</sup>。接尾辞「力」による造語はたくさんみられる。「現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言版 (BCCWJ-NT)」で調べてみると、品詞では、「影響力・競争力・想像力・集中力」といったサ変動詞語幹となる名詞と「力」の結合、および「語彙力・経済力・技術力・原子力」といった名詞と「力」の結合が主である。そのうち、名詞と「力」の結合においては、「市民力・区民力・老人力」などの「人間活動の主体」を表す語を前接語とする特徴的な造語がみられる。本研究の研究対象である「女子力」はここに位置付けられる<sup>(2)</sup>。

### 4. データと研究方法

本研究のデータは、「女子力」についての記述式のアンケート調査から収集した文字データである。調査対象は首都圏のある大学の10代～20代の大学生・大学院生（合計：64名、女性：33名 男性：31名）で、調査期間は2019年の8月から9月上旬にかけてである。なお、アンケート調査は Google フォームを利用して、実施した。

アンケートは九つの調査項目について行ったが、ここではその中から次の二つの調査項目に対する回答をとりあげて分析する。

- ① あなたが考える「女子力」とは何ですか。
- ② 「女子力」およびそれを含むことばを誰かに使ったことがありますか。  
ありましたら、どこで誰（性別、関係）にどんな言い方で使ったか、相手はどのような反応をしたかを具体的に教えてください。

アンケート調査から収集した文字データに表われる言語標識を軸に「女子力」はいかに解釈され、定義されるのか、また、「女子力」の使用において男女でどのような違いがあるのかに着目しながら、分析を行う。具体的な手

順としては、まず、調査項目①の回答について、「女子力」の定義や解釈に表われる接尾辞の「らしい」「っぽい」、「できる」といった動詞、「得意」といった形容詞を軸に、「女子力」に混在するジェンダーの要素と能力の要素を分析する。次に、調査項目②の回答について、まず、授受（補助）動詞の「(て)くれる」「(て)もらう」を軸に、行為によって具現化された「女子力」はどのように受け取られるのかを明らかにする。さらに、「女子力」の使用に関連する記述を男女別に分析し、その特徴をみていく。

## 5. 分析と考察

### 5.1 「女子力」とは

「女子力」ということばを知っていますか」という調査項目においては、1人（男性）を除いて、63人が「知っている」と回答した。そのうち、61人は「あなたが考える「女子力」とは何ですか。」という問いに「女子力」の定義、解釈を記述している。本節では記述された定義、解釈における言語標識を軸に分析を行う。

#### 5.1.1 「女子力」と「女性らしさ」

「女子力」を巡る定義、解釈のキーワードには「女性らしい」「女子らしい」「女の子らしい」「女子っぽい」が挙げられる。下記の【データ1】からわかるように、「女子力」ということばを直接に「女性らしい」「女の子らしさ」「女子っぽさ」の一言で解釈する回答もある。このような回答から、「女子力」は「女性／女の子らしさ」「女子っぽさ」そのものであると捉えられていることがうかがえた。

#### 【データ1】

- (1) 女性らしいこと。(女性、10代)
- (2) 女子っぽくあること。(男性、20代)
- (3) 女子っぽさ。(男性、10代)
- (4) 女の子らしさ。(男性、20代)

「女性らしい」「女子っぽい」のような接尾辞「らしい」「っぽい」による語を用いて回答したほかのデータには、具体的な例を挙げつつ、「女子力」に解釈を与えた記述がみられる。このような具体的な例からは、「女子力」とされる「女性／女子／女の子らしさ」「女子っぽさ」はどのような要素で構築されるのかをつかむことができる。

## 【データ2】

- (1) 身だしなみの女性らしさ、しぐさ、料理や裁縫ができるか、ハンカチや絆創膏を常に持っているかなど。(女性、20代)
- (2) 髪型やネイルなど女子らしいこと。(女性、20代)
- (3) 女の子・女性らしい言葉遣いや行動。(女性、20代)
- (4) 細やかな気配りができること、装いが女性らしいこと。(男性、20代)

上記のデータから「女子力」にみられる「女性らしさ」は外見に関連する「身だしなみ」「髪型、ネイル」「装い」で構築されている一方、「言葉遣い、行動」によっても構築されていることがわかる。

なお、データにおける「女性／女子／女の子らしさ」「女子っぽい」といった言語標識に対応する具体的な表象は表1のようなものである<sup>(3)</sup>。表1からは、「女子力」における「女性らしさ」はどこにみられるのか、どのようなものに表われるのか、という「女性らしさ」のありかがわかる。

表1 「女子力」を表す言語標識とその表象①

言語標識	その表象
女性／女子／女の子らしさ	身だしなみ、言葉遣い、行動、気遣い、香り、スカート、ピンク、清潔感、振る舞い、装い、髪型、ネイル、仕草
女子っぽい	行動

「男らしさ」「女らしさ」について調査した高井ほか（2009：68）は質問紙の自由記述欄のデータを用い、「女らしさ」に関しては「優しい、上品、気遣い・繊細、家庭的、かわいい、愛嬌、色気、美しい、控えめ、男を立てる、

明るい、あたたかい、思いやり」といった項目が挙げられると指摘する。本研究のデータから観察できる「女性／女子／女の子らしさ」について挙げられた例には「気遣い」以外に、それらと重なる項目はみられない。高井ほか（2009）の挙げる「女らしさ」の項目は、人柄、性格、美しさなどの属性的な側面に偏っている。一方、表1に挙げた表象「言葉遣い」「振る舞い」「仕草」からは、「女子力」にみられる「女性らしさ」が行動的な側面を含むことがわかる。そして、「身だしなみ」「香り」「スカート」「ピンク」「清潔感」「装い」「髪型」「ネイル」などは外見に関する内容であるが、そこにも「女性らしさ」がみられるとされる。このような「女性らしさ」は、努力によってつくられていくものである。つまり、「女子力」は「女性らしさ」を構築する動的なプロセスを可視化することばであるといえる。

### 5.1.2 「女子力」と「能力」

「女子力」の「能力」に関わる要素について、能力および評価を表す動詞、形容詞の言語標識を軸に分析して探してみる。まず、「女子力」に対する解釈には「できる」という標識が頻出することが指摘できる。下記はそのデータの一部である。

#### 【データ3】

- (1) 通常女性に期待される、料理や裁縫など手先の器用さを要する仕事をうまくやることのできる能力。また、化粧やファッションに気を配り、かわいらしく、美しく見せることのできる能力。(女性、20代)
- (2) 家庭的な行動ができること。家事とか。(女性、20代)
- (3) 料理、家事ができる。身だしなみがきれい。(女性、20代)
- (4) 心配りができる。(男性、20代)
- (5) 世の中で「女性らしい」とされる、周囲に配慮した振る舞いをすることができること。(女性、20代)

中島（2010：172）が「女子力」といった新造語の意味合いには「もつこ

とを期待される能力」が含まれると指摘するとおり、【データ3】の(1)の「できる」ことは「料理や裁縫など手先の器用さを要する仕事をうまくやること」で、そして、そのメタ解釈の「通常女性に期待される」から、「女子力」ということばに含まれる能力の要素には「期待される」という特徴があることがうかがえる。(2)は「家事」を例として挙げつつ、「女子力」は「家庭的な行動ができること」とされ、(3)は「家事」のほかに「料理」も加えて、「女子力」は「料理、家事ができる」ことと解釈されている。(4)は「女子力」を「気配り」、(5)は「女子力」を「周囲に配慮した振る舞い」ができることと解釈している。

データから得られた「女子力」に対する解釈における「できる」ことの表象（何ができるか）を下記の表2にまとめた。

表2 「女子力」を表す言語標識とその表象②

言語標識	その表象
できる	料理、裁縫、手先の器用さを要する仕事、かわいらしく見せること、美しく見せること、清潔感ある行動、身の回りのこと、家事、家庭的な行動、女だからこそ持っている魅力を発揮すること、気遣い、周りへの気配り、気配り、周囲に配慮した振る舞いをする、洗濯、女性が得意あるいは女性らしいと考えられていること、細やかな気配り

また、「できる」のほかに評価を表す「優れている」、存在を表す「ある」、携帯を表す「持つ」、および、評価を表す「上手」「得意」「器用」「いい」といった言語標識からも、「女子力」に含まれる能力の要素およびその表象がうかがえる。

#### 【データ4】

- (1) 家事能力が優れていて、女子らしいことが得意、または好きであること。(女性、10代)
- (2) 身だしなみの女性らしさ、しぐさ、料理や裁縫ができるか、ハンカチや絆創膏を常に持っているかなど。(女性、20代)

- (3) センスがいい、かわいらしいものを持っている、手が器用。(女性、20代)
- (4) 生活力がある。家事ができる。身なりがかわいく整っている。(女性、20代)
- (5) 絆創膏をもっている、料理が上手、裁縫ができる。(男性、20代)

【データ4】の下線を引いた言語標識、および、その主語、目的語のコロケーションは「女子力」の能力の要素を構築しているものといえる。「家事能力」が優れていること、「女子らしいこと」が得意、「手」が器用、「センス」がいいということ、および「ハンカチ、絆創膏、かわいらしいもの」を持っていることは「女子力」と捉えられ、評価される。なお、今回集めたデータにおけるこのような言語標識およびその表象は以下の表3のようにまとめることができる。

表3 「女子力」を表す言語標識とその表象③

言語標識	その表象
優れている	家事能力
ある	清潔感、生活力、細やかさ
持つ	ハンカチ、絆創膏、かわいらしいもの
得意、上手、いい、器用	女子らしいこと、料理、裁縫、おめかし、センス、手

能力を表す「できる」、携帯を表す「持つ」、存在を表す「ある」、評価を表す「優れている」「得意」「上手」「いい」「器用」のような言語標識から、「女子力」は身に付けられ、評価される能力の一種として捉えられていることがうかがえる。近藤（2014）、菊地（2016、2019）、大上ほか（2016）でも指摘されているように、「女子力」は生得的なものではなくて、努力によって、比較的短期間で、後天的に身につけられるものであるといえる。そして、これらの言語標識に対応する表象の「家事」「料理」「裁縫」「洗濯」「気遣い」といったものから、「女子力」の下位構成要素には伝統的なジェンダー規範の要素が併存していることをみることができる。また、これが「できる」



なら、それが「優れている」なら、または、これが「上手／得意／いい」なら「女子力」と見なされ、評価されることから、「女子力」は一種の能力であると同時に、「女性らしさ」を測定する尺度でもある。

### 5.1.3 行為化された「女子力」

上記の分析では、「女子力」はジェンダーの要素と能力の要素が混在する「女性らしさ」を構築する動的なプロセス、「女性らしさ」のありか、尺度であることが明らかになった。このような「女子力」が行為として具現化された場合、どのように受け取られるのかを下記の【データ5】から分析する。

#### 【データ5：授受（補助）動詞】

- (1) 高校の女友達に絆創膏をもらったときに女子力高いなーと言ったら、でしょーと言われました。(男性、10代)
- (2) BBQ 中で手が汚れた際に、パッとウェットティッシュをくれた人(男女は問わない)に女子力高いねって言った。(男性、20代)
- (3) 言ったことはないが、女性がさりげない気遣いをしてくれたときに、この人女子力高いなと思う。(男性、20代)
- (4) 外でティッシュをすぐに渡してくれた女の友だちに対し、誉め言葉として言ったら、謙遜していた。(女性、20代)
- (5) 同性の友達に対して、彼女がハンカチなどを貸してくれたときなどに軽い調子で「女子力高いね」や「女子だね～」などと言う。相手は笑ったりドヤ顔などをしてのってくれる。(女性、20代)
- (6) 男友達とご飯に行った際、水やおしぼりを持ってきてくれたときに「女子力高いね」とふざけて言ったりする。反応としては「でしょ?」とよく言われることが多い。(男性、20代)
- (7) 飲み会の場でサラダを取り分けてくれた男友達にふざけて「女子力あるね」とほめた。照れていた。(男性、20代)
- (8) 女性の友達に対して。手料理をご馳走してもらった時。感心した様子で「女子力高いね～」ありがとうと嬉しそうにしていた。(男性、20代)

【データ5】の(1)から(8)までから、「女子力」は「絆創膏をもらった」「ウェットティッシュをくれた」および「してくれた」「渡してくれた」「貸してくれた」「持ってきてくれた」「取り分けてくれた」「ご馳走してもらった」で表される行為で具現化されるといえる。そのうち、(1)(2)は「女子力」を表象する「絆創膏」「ウェットティッシュ」が授受の対象となり、(3)から(8)までは「水やおしぼりを持ってきてくれた」「サラダを取り分けてくれた」といった事態が授受の対象となる。益岡(2001: 27-28)は、授受動詞は「単に事物の授受を表すだけでなく、通常、授受の対象である事物が当事者にとって「好ましい」ものであるという意味を表す」とし、その特徴は「事態の授受を表す補助動詞構文にもそのまま引き継がれる」と指摘する。つまり、「女子力」を象徴する「絆創膏」「ウェットティッシュ」や、「水やおしぼりを持ってきてくれた」「サラダを取り分けてくれた」といった「女子力」とみられる行為は受け取る側にとって好ましいものなのである。ここでは、「女子力」に絡むものや事態は好ましいものと評価されていることが授受(補助)動詞によって可視化されている。言いかえれば、相互行為において具現化された「女子力」は受け取る側にとって好ましいものと評価されているのである。

## 5.2 「女子力」という語の使用

5.1節では言語標識を軸に「女子力」に混在するジェンダーの要素と能力の要素および行為化された「女子力」はどのように受け取られるのかを分析したが、本節では、女性、男性はそれぞれどのように「女子力」を使うのかを分析したい。

対象とするデータは、「『女子力』およびそれを含むことばを誰かに使ったことがありますか。ありましたら、どこで誰(性別、関係)にどんな言い方で使ったか、相手はどのような反応をしたかを具体的に教えてください。」という問いに対する回答である。回答なしが11人、「使ったことがない」または「あまり使わない」といった回答を記述した人が13人で、40人から「女子力」に関するメタ語用的なデータが得られた。そのメタ語用的データには、

下記の例のように、引用が用いられながら、記述されたものが多い。

例：友達の手料理を食べて「女子力高いね」と言った。相手は嬉しそうだった。

このような引用を用いた記述は、女性にも男性にも観察される。本節では引用を中心に「女子力」の使用の様相、および、そこにみられる男女別の特徴を考察する。

女性と男性の回答における引用句の内容から、「女子力」という語を使用した表現は、以下の①から③までの三つの形にまとめられる。

- ① 女子力ある（ね／よね）（女性・男性）
- ② 女子力高い（な／ね）（女性・男性）
- ③ 女子力貸して（女性）

女性には①～③の表現が、男性には①②の表現がみられた。これらから、「女子力」は高さを表す「高い」、存在を表す「ある」とコロケーションを有していることがわかる。また、女性の場合には、「女子力」と「貸す」とのコロケーションもみられた。

女性、男性の記述における引用動詞は「言う」「ほめる」「頼む」「使う」という四つの種類にまとめられる。また、引用に伴う当時の文脈の描写および相手の反応の記述においては、「冗談」「感心」「嬉しそう」といった言語標識が用いられている。ここで男女別にデータを提示し、分析を進めたい。

表4 「女子力」を使用する相手と回答者数

女性		男性	
相手	回答者数	相手	数
女性	14	女性	7
男性	2	男性	8
男女問わず	1	男女問わず	1
言及なし	5	言及なし	2

表4は「女子力」を使用する相手と回答者数を男女別にまとめたものである。表4から、女性は「女子力」を同性の女性に使う記述が多いこと、男性は同性の男性に使う記述と異性の女性に使う記述が大体同じ数であることがわかる。下記の【データ6】は女性、【データ7】【データ8】は男性の具体的な記述である。

【データ6：女性⇒女性】

- (1) ハンカチを持っていたり、ボタンが取れたときにさっと裁縫セットを取り出してボタンをつけたりしている女の子を見たときに女子力が高いと褒める。(女性、20代)
- (2) 友達の手料理を食べて「女子力高いね」と言った。相手は嬉しそうだった。(女性、10代)
- (3) トイレで手を洗う時ハンカチを忘れたので友達に「女子力貸して」と頼んだことがある。ハンカチ＝女子力の象徴として女子力を貸してと言った。(女性、20代)

【データ6】の(1)における引用動詞の「褒める」および(2)における相手の反応としての「嬉しそう」から、「女子力が高い」は「ほめ」の効果のあることばとして女性は同性の女性に使うことがうかがえる。その「ほめ」の対象は「女子力」を表象する「ハンカチを持っていること」「裁縫セットを取り出してボタンをつけること」および「手料理」である。「女子力」と「貸す」のコロケーションのみられる(3)は、「女子力貸して」の形で使われるデータである。その貸し借りの対象は「ハンカチ」である。【データ6】から、「女子力」を使用した記述には、「女子力」を象徴する相手の所持物、行為を評価する表現がみられるだけではなく「女子力」を貸し借りの対象とする依頼表現もみられることがわかる。これらの表現から「女子力」は外から評価される能力であると同時に、貸し借りのような相互行為の対象であることもいえるだろう。「女子力」を用いた「ほめ」の効果のある表現や、「女子力」を貸し借りの対象とする表現からは、「女子力」による女性同

士の連帯感がうかがえる。

【データ7：男性⇒男性】

- (1) 飲み会で冗談として、男性にも「女子力あるね/高いね」という旨の発言をした。その場の冗談として受け取られた。(男性、20代)
- (2) 男友達とご飯に行った際、水やおしぼりを持ってきてくれたときに「女子力高いね」とふざけて言ったりする。反応としては「でしょ?」とよく言われることが多い。(男性、20代)
- (3) 飲み会の場でサラダを取り分けてくれた男友達にふざけて「女子力あるね」とほめた。照れていた。(男性、20代)
- (4) ケーキを作るのが趣味の男の友達に「女子力があるね」と言いました。相手は「そんなことないよ」と謙遜していました。女子力は本来女子に使われる言葉なので、冗談に近かったです。(男性、20代)

男性の8人は、同性の男性に対して「女子力」を使用している。そのうちの半数の4人は、【データ7】のように「冗談」または「ふざけて」と発話意図に言及している。男性が男性に対して「女子力」を使用するときには、その場の「冗談」として、または、その場で「ふざけて」言う場合が多いことがわかる。また、引用標識の「ほめた」や、話し手（書き手）が解釈した相手の反応「照れていた」「そんなことないよ」と謙遜していました」から、「女子力あるね」を「ほめ」の効果のあることばとしても使っていることがうかがえる。つまり、男性は同性の男性に対して、「女子力」を「冗談としてのほめ」として使うということがいえるだろう。

一方、男性は、女性に対して「女子力」を使う発話意図には言及していないが、下記の【データ8】に表われる「感心」「ありがとうと嬉しそうにしていた」「照れくさそう」といった相手の反応の記述から、「女子力高いね」を「ほめ」の効果のあることばとして使っているといえる。

#### 【データ8：男性⇒女性】

- (1) 女性の友達に対して。手料理をご馳走してもらった時。感心した様子で「女子力高いね～」ありがとうと嬉しそうにしていた。(男性、20代)
- (2) 毎朝お弁当を作っているクラスの女の子に「女子力高いね」と感心するように言いました。照れくさそうな反応をしました。(男性、20代)

このように、「男性」は同性の男性に対しても異性の女性に対しても、「女子力高いね／あるね」を「ほめ」の効果のあることばとして使うところは共通するが、同性の男性に対しては、それを「冗談」の効果のあることばとして使う点が特徴的である。「女子力」は、一種の能力として、その形式の「女子」の表すジェンダーの境界線を越え、男性のジェンダー領域にも入って男性に対しても用いられる。しかし、元々女性のジェンダー領域に属するものだという認識は、男性に対して「女子力」を用いることへの距離感を生み、それが「冗談」「ふざけて言う」につながっているといえる。このことは、【データ7】に挙げた男性の「女子力は本来女子に使われる言葉なので、冗談に近かったです」という「女子力」に対するメタ解釈によく表われている。

#### 6. 終わりに

本研究はアンケート調査から得られた記述式のデータにおける言語標識、言語表現に焦点化し、ミクロのレベルから「女子力」を考察した。

「女子力」の正体については、まず、「女性」「女子」「女の子」に接尾辞の「らしい」「っぽい」が結び付いた言語標識を軸に、「女子力」は「女性らしさ」を構築する動的なプロセスを可視化し、「女性らしさ」のありかを示していることに傾いていることを明らかにした。そして、「できる」「優れている」「持つ」「ある」といった動詞および「得意」「上手」「いい」といった形容詞を軸に分析した結果、「女子力」は一種の能力として捉えられ、評価されることがわかった。また、その能力の内容から、「女子力」は伝統的なジェンダー規範を維持、構築する側面があることを明らかにした。最後に、所持物や行為に具現化された「女子力」は、受け取る側にとって「好ましい」も

のや事態として捉えられるということが授受（補助）動詞の分析からわかった。

「女子力」の使用の様相においては、「女子力」による女性同士の連帯感が、「女子力高いね」といった「ほめ」の効果のあることばにみられるだけでなく、「女子力を貸して」といった「女子力」を貸し借りの対象にする表現からもうかがえた。また、引用における引用標識の「ほめた」、および、その引用を巡る描写における「冗談」「ふざけて言う」といった言語標識を軸にした分析から、「女子力あるね」「女子力高いね」などの表現を、女性は同性の女性に対して「ほめ」の効果があることばとして使うが、男性はそれを「冗談としてのほめ」として同性の男性に使うことがわかった。そして、この違いから、男性が「女子力」に対して持つ距離間が垣間見える。

本研究の調査協力者の数は限られていて、量的に十分なデータが得られたとは言えない。調査協力者の年代も10代～20代だけで、年代差を見ることができなかった。今後、さらにデータを充実させて、「女子力」に関する考察を深めていきたい。また、「女子力」の使用の様相について、今回は使う側の男女別に考察したが、使われる側の男女別ではどのような特徴があるのか、本当にそれを「ほめ」または「冗談」として受け取るのかについては更なる研究の余地があり、今後の課題にする。

#### 注

- (1) 『大辞林』（第三版）によれば、接尾辞「力」には「りょく」と「りき」という二つの読み方があるが、本研究における接尾辞「力」は「りょく」を指す。
- (2) 「市民」「区民」「老人」「女子」を「人間活動の主体」とまとめたのは、『分類語彙表』（2004）を参照したものである。
- (3) データには「らしい」およびその名詞化された形の「らしさ」の両方が用いられているが、表1では「らしさ」でまとめた。

#### 参考文献

大上真礼・寺田悠希（2016）「『女子力』と『男らしさ・女らしさ』に違いはあるか—測定語の変遷に着目して—」『田園調布学園大学紀要』11 pp. 169-188

田園調布学園大学

- 菊地夏野 (2016) 「「女子力」とポストフェミニズム—大学生の「女子力」使用実態アンケート調査から—」『人間文化研究』25 pp. 19-48 名古屋市立大学大学院人間文化研究科
- 菊地夏野 (2019) 『日本のポストフェミニズム—「女子力」とネオリベリズム—』大月書店
- 近藤優衣 (2014) 「「女子力」の社会学—雑誌の質的分析から—」『女子学研究』4 pp. 24-34 甲南女子大学女子学研究会
- 高井範子・岡野孝治 (2009) 「ジェンダー意識に関する検討—男性性・女性性を中心に—」『太成学院大学紀要』11 pp. 61-73 太成学院大学
- 中島晶子 (2010) 「新造語における「度」「系」「力」の用法」大島弘子・中島晶子・ブラン・ラウル編『漢語の言語学』pp. 159-175 くろしお出版
- 益岡隆志 (2001) 「日本語における授受動詞と恩恵性」『言語』30-5 pp. 26-32 大修館書店

#### 参考資料

- 国立国語研究所編 (2004) 『分類語彙表』(増補改訂版) 大日本図書
- 松村明編 (2006) 『大辞林』(第三版) 三省堂

#### コーパス

「現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言版」(BCCWJ-NT) 国立国語研究所

付記：本稿の調査から執筆の際までご教示をいただいた方々に、深く感謝の意を表わしたい。

(ま うえんうえん：筑波大学大学院)

(2019.11.11 受理)